

【先輩からのメッセージ】 …1年間の経験から…

公立高校の学力検査・面接後、3月14日(金)に卒業式を終えた3年生に「後輩へのバトン」というタイトルで在校生の皆さんに向けて、自分の経験や後輩へのアドバイスを書いてもらいました。卒業した3年生の多くの人が真剣に、そして多くの言葉を残してくれました。記載内容は多岐にわたりますので、1年生の皆さんには時期に合わせて紹介して行きたいと思います。

まず、今回は下記の【1】～【4】について紹介し、入試前の過ごし方や緊張感の乗り越え方、Web出願の注意点などは時期が来たら紹介します。

【1】高校説明会に参加して

- 良い所しか語られないが、それを理解して参加すれば参考になる。
- 学校祭に行った方がよい。その学校の雰囲気がよくわかります。
- 感じ取れて雰囲気が良かった。
- 行ってみないと分からないことが、たくさんあって参考になった。
- 自分は行かなかったが、あとで後悔したのでいった方がよい。
- 参加して受験当日の緊張緩和になった。
- 参加すると校風、先輩の姿、同級生になるかもしれない人の雰囲気がかめます。
- 私立はその学校の過去の入試問題がもらえるし、入私問題の傾向を教えてください学校もある。
- 受験へのモチベーションが上がる！！
- 公立自己推薦を希望する人は、説明会の参加は必須です。
- 「思っていたのと違う」と感じたことがあるのでいった方がよい。
- 入試の面接の際に、説明会に参加したといえるので行った方がよい。

【2】進路選択の方法や時期について

- テストや模試の成績だけではなく、どういう高校生活を送りたいか、自分の気持ちを大切に選べると良い。
- とにかく早くから選択に入るべき。(多数)
- 部活動や家からの距離を考慮すべき。遠い学校は受験にいくだけでも大変だった。
- 3年間通うのだから、じっくり選択した方がよい。
- 公立は最後まで頑張ってから、決断した方が後悔がない。
- 夏休み中にいろいろな学校を見て、9月に決めると良い。迷ったら単純な理由(通学・校舎施設・制服)で決めても良い。
- 保護者とよく話して、親子ともモヤモヤの残らない選択をすることが大事だと思う。
- 選択時期が遅くなってパニックになった。早目に親や先生に相談すべきだと思う。
- 制服や友達で決めるのはやめるべき。近さや学びの内容を最優先すべきです。
- 選択が遅いと説明会も終わっているのだから、夏休み前のある程度絞っておくべき。

【3】1年間を終えて、一番良かった事

- チャレンジテストを頑張ってよかった。内申点が上がって心にゆとりが持てた。
- 道コンを受けて自分の力を知れたこと。
- 限られた時間で、自分で計画を立てて頑張りができたこと。
- 夜に勉強をすることを辞めて、早起きを徹底したこと。疲れて眠い中、勉強しても効果はあがらないから。
- 暗記ではなく考える勉強をしたら英語・数学の成績が伸びたこと。
- 最後まで諦めないで頑張ったこと。落ちてても合格しても後悔はないです。
- 苦手な部分から勉強できたこと。3年生の勉強はつまずくポイントがたくさんあるので。

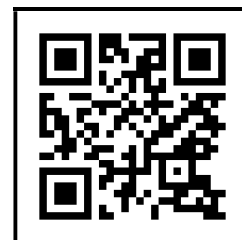
【4】1年間を終えて、一番後悔している事

- もっと勉強していたら、上を目指せた…。
- 私立、公立の説明会に全く行かなかったこと。
- 中1から頑張れば良かった…。
- 提出物をちゃんと出してあげればよかった…。
- (自己推薦の)面接練習は対策が必要なのでもっと早くから始めれば良かった。
- 3年生はあっという間だった。もっと勉強する時間はあったと思う。
- 総合ABC対策(受験勉強)はもっと早くからすれば良かった。
- 意味不明なミスをしてしまった。あのときしっかりやっていたらと思う。
- 部活を言い訳にして、受験勉強のスタートを遅らせてしまった。

【進路選択に役に立つHPの紹介】

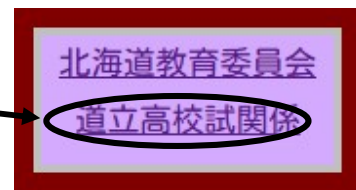
「私学ナビ HOKKAIDO」

- ・「授業料の負担軽減」、「授業料以外の教育費負担軽減」「奨学金及び入学資金貸付制度」が紹介されています。
- ・決定したら私立高校の入試日程（推薦・単願と一般）や入学手続きの締め切り、2次募集の一覧が掲載されます。



「北海道教育委員会 HP（公立入試関係）」

- ・過去の入試問題や入試関係の情報の掲載
- ・札幌市教育委員会には自己推薦の過去問題の掲載が時期が限定されて公開されます。



（本校 HP にあります）

【修学支援制度】 … 支援の拡充へ …

- ① 2025年度から公立・私立ともに「年収910万円」の所得制限を撤廃し、9,900円×12＝118,800円を支援 …（9,900円は全日制公立高校の授業料）
- ② 2026年度からは私立高に通う生徒向けの支援金の所得制限を撤廃し、現行の年間最大39万6000円から引き上げ、私立高授業料の全国平均額である45万7000円を基準額として支援。

という報道がありました。支給額等の調整が与野党間で難航していましたが方向性は見えてきて、①・②の支援は確定的な状況になりました。仮に私立高校の所得制限「570万円」の撤廃と 45万7,000円の支援があるとすると、私立高校の授業料は実質無償となります。但し、私立高校は入学金20万円前後、毎月の施設費や教育充実費などの名目で5,000円前後かかる学校が多く、また、修学旅行の旅費も高いので、その点では公立よりは金銭的な負担が大きいのは事実です。しかし、その差額は非常に小さくなり、私立高校を第一志望にするハードルは下がったと思います。遠い公立と近くの私立では交通費の差額でさらに差は小さくなります。皆さんが高校進学時には確定している支援制度導入となります。

※参考までに修学支援金は進学した学校に直接振り込まれます

【公立自己推薦について】 … 厳しい現実があります …

過去に本校から自己推薦受検者のいた高等学校は「市立では旭丘・藻岩・平岸・大通・啓北商業」、「道立では国際情報・札幌工業・琴似工業・東商業」となっています。

自己推薦は本人・保護者の意思で決定しますが「ワンチャンいけるかも」くらいの軽い気持ちで出願すると大変苦労することになります。①自己推薦書を後期チャレンジテスト前に作成、②2月10日の面接・適性検査の準備（自己推薦書作成や面接にむけて受検する学校スクールポリシーなど特色の調査）、③私立高校の受験・公立の学力検査に向けての学習や面接の取組④適性検査（学校・学科によりますが、試験のような検査・作文・英語の面接がある学校）への準備取組、⑤しっかりした受検の動機…と多岐に渡る取組が必要です。そして、しっかりした準備と決意をもつてのそんでも合格内定のハードルは高いです。

厳しい現実として例えば今年度の自己推薦は、旭丘は定員48名に115名の出願（2.4倍）、平岸は定員28名に88名出願（3.14倍）と一般受験より遥かに狭き門となっています。しかも、当然ランクや実力に自信のある出願が多いのが現実です。

一方、国際情報高校や職業科（工業・商業）の高校は自己推薦の枠が定員の50%のため、むしろ自己推薦を考えた方がよい学校もあります。

いずれにしても自己推薦を希望する場合は入念な下調べと準備が必要になることを理解して、強い信念や志望の動機をもって学習や学校生活に取り組んで欲しいと思います。